

百尺竿頭

ひゃく しゃく かん とう



札幌市青少年山の家だより

第36号

平成25年(2013年)7月1日発行

札幌市青少年山の家

社会教育専門職 工藤茂広

出前授業 ～安心して生きられる地平を育む、学社融合～

いまから18年前のことになりますが、国立青年の家・少年自然の家の在り方に関する調査研究協力者会議において、次のような報告¹⁾がありました。

「これからの生涯学習社会においては、学校と学校外教育がそれぞれの役割を分担した上での連携を図っていくというだけでなく、それ以上に、相互がオーバーラップしつつ、融合した形で行われることが必要であり、また、それがむしろ自然である。

～中略～

青少年の育成に当たって、このような学社融合を図っていくためには、国立青年の家・少年自然の家が、その先頭に立っていくことが求められている」

ここで言う学社融合とは、国立青年の家・少年自然の家（現青少年交流の家・青少年自然の家）等の社会教育施設が、本来の教育力を発揮することにより、学校教育だけでは成し得ない新たな教育を可能にしようというものです。

その当時においても、学校と社会教育施設が、独自の教育機能を発揮しながら連携し、相互に補完し合おうとする取り組みが、学社連携という概念の下に進められていました。しかし、その実際は、活動内容を学校側が一方的に決めたり、施設側も物的機能の提供に終始したりという状況にありました。

このような中で、施設の人的・物的機能を活用し、学校の教育目的をより効果的に達成するために、学社融合という概念が登場しました。活動計画の作成から実施段階における具体的な支援に至るまで、双方の密接な連携・協力関係が基盤となる学社融合は、学社連携の最も進んだ形²⁾とされています。

同報告より6年前（平成元年）に生まれた当施設は、ほとんどの札幌市立小学校（現在約200校）が、宿泊学習で利用してきました。開館以来の実際が融合した形であったかは、いずれ検証することになるでしょう。それでも、5年前に始めた出前授業が、学社融合の域に入ったことだけは実感できます。

おずおずと導入した取り組みも、いまでは100校を超える盛況ぶり。しかし、その量的拡大は、いつしか出前授業を自己目的化させていました。これでは、学校が施設に場所を移し学校教育を行っているように、施設が学校に場所を移し社会教育を行っているだけではないかと悩みました。

まさに、学校教育と社会教育が相互補完するだけで精一杯な、学社連携の様相です。学社融合を志向した幾多の先駆者が挑んできたであろう限界に直面しました。ただ、この状況を好意的に解釈すれば、ようやく連携と融合を隔てる境界にたどり着いたと言えます。

もし当施設に、自らを客観視する資質がなければ、出前授業はいつまでもその境界に、しかも進歩や成果が得られない側に位置していたはずです。しかし、これまでの教育実践をとおして、双方の目的を果たす上で、出前授業が実に優れた融合方法であることに気づくことができました。

当施設に目的があるように、学校にも目的があります。また、当施設に困難があるように、学校にも困難があります。相手の困難な状況を、自分に置き換えて受け止める現実感をもった連帯がなければ、真の学社融合ではありません。

「未来を切り拓く人間性豊かで創造性あふれる自立した札幌人」を実現するために、学校との間で、より現実感ある連帯を築いていくことが、当施設に求められています。それぞれの学校と共に創造する出前授業は、札幌市青少年山の家 の力量形成にとって必要な、学社融合のプロセスです。

あらゆる人・町・暮らしを、みんなで育み合う学社融合という時空。出前授業、なかよしキャンプや林間学校といった札幌市ならではの学社融合が、安心して生きられる地平をゆっくりと育んでいます。私たちの未来は、一人一人のいま、ここに 있습니다。

引用・参考文献

- 1) 国立青年の家・少年自然の家の在り方に関する調査研究協力者会議（1995）国立青年の家・少年自然の家の改善について。
- 2) 秋田大学社会教育主事講習運営委員会（1997）学社融合と青少年の野外教育．ふれあい in 秋田．90-107.

利用者アンケートより

△過去に「青少年山の家活動プログラム集」というものが配られていました。

今年度もそれを参考にしましたが、用具やプログラムなどが利用しやすくなっているので、変更されている部分を新しくして、また出していただきたいと思います。

⇒札幌市青少年山の家ホームページにて、各体験活動のプログラムシートを公開しております。プログラムシートについては、変更があった場合には情報更新をして公開しておりますので、そちらをご参照いただけますようお願いいたします。

実施事業のご報告

■第1回ボランティアフォローアップ研修 6月2日(日)

朝から快晴の天気のもと、軽登山体験を行いました。奥三角山、大倉山、三角山の縦走ルート歩き、滝野に負けないくらい色とりどりの草花を観察することができました。



ボランティアフォローアップ研修

■平成26年度分学校利用抽選会 6月7日(金)

平成26年度の札幌市内小学校宿泊学習に向けた学校利用抽選会を実施しました。193校の先生方が集まり、挨拶および説明の後、抽選を行いました。先生方の協力もあり、スムーズに進行したため、各校の利用日を決定することが出来ました。



学校利用抽選会

■第2回事前研修会 6月8日(土)

6月から9月に利用する市内小学校の先生を対象に、ハイキングや野外炊事など、実際に宿泊学習で活動する予定のプログラムを体験していただきました。



事前研修会

活動体験終了後は学校毎に館内視察を行う等、充実した時間を過ごされました。

■第2回自然観察ハイキング 6月29日(土)

大人コース24名、親子コース9組25名で実施しました。大人コースはせせらぎコースにて夏の草花観察を、親子コースはイタドリを使った笛あそびや昆虫観察を楽しみました。



自然観察ハイキング

■幼保小連携事業「なかよしキャンプ」① 6月30日(日)

年長幼児41名、小学5年生33名、合計74名が参加したなかよしキャンプでは、学校毎に色分けをしたバンダナを身につけ、野外で元気いっぱい遊びました。たき火で焼いた焼きマッシュマロの味は格別だったようです。



なかよしキャンプ

野外活動の



「ハチトラップ」

一気に春を通り越し、初夏の陽気が感じられるようになってきた滝野の森。この時期になると現れる危険なヤツ！そう、ハチです！

このハチ達をみなさんの近くに寄せ付けないため、活動場所から少し離れたところに設置し、ハチを捕獲する罠こそがハチトラップなのです。

作り方の一例として、ペットボトルの側面に一辺2cm程度の四角を書き、上の横線と縦線2本にカッターで切りこみを入れた後、「折り返し」を付けるために下横線を起点にペットボトルの内側に折り込みます。折り返しの効果によって、中に入ったハチは外に出ることができません。

中に入れる誘引液は酒・酢・砂糖を混ぜて作ります。誘引液をペットボトルの中に入れたら、ひもをつけて大人の身長よりも少し高いところに吊るすことで設置が完了します。

森林や山中にはもちろんの事、公共施設や公園なんかなんかにも意外と仕掛けられていますよ。

皆さんも外出の際には少～しだけ高い所に目をむけてみてはいかがでしょうか？

発行者：札幌市青少年山の家
指定管理者（公財）さっぽろ青少年女性活動協会

〒005-0862 札幌市南区滝野 247 番地（国営滝野すずらん丘陵公園内）
電話 (011)591-0303 FAX(011)591-0394
ホームページ <http://www.sapporo-yamanoie.jp>

ひゃくしゃくがんとう
百尺竿頭

